

### イベント情報

#### 第6回 ほんわか山交流まつり in 香恋の里

昨年に引き続き、下山地区で行われます。魅力的な出店、出演者に数多く出会う一日。今年は特別に『いなか暮らし説明会』が同日に行われます(要予約)。皆さん是非、お出かけください。

- 日時：2017年3月26日(日) 10:00~15:00
- 場所：まどいの丘(豊田市神楽町中切7-2)
- 出店：和合自治区、香恋の館・山遊里、餅神商店、しもやま再来プロジェクト、他多数▼マイ箸・マイ皿のご持参にご協力ください▼イノシシハムの振る舞い、農薬不使用下山産茶葉の和紅茶・ほうじ茶の飲み比べあり
- 出演者：雅(和太鼓)、大正琴愛好者グループ、他多数
- いなか暮らし説明会【事前予約制】：和合地区の空き家、宅地候補地の現地説明会とIターン移住者を囲んで子育て、日常生活、就業といった内容の座談会を開催します。▼定員：先着10組▼申込：まどいの丘(9:00~17:00土日祝休み) Tel.0565-90-4488▼時間：10:00~12:00 空き家・宅地候補地見学 13:00~座談会(座談会のみ参加も可能)
- 家庭でできる手作りこんにやく体験&こんにやく芋の販売【事前予約制】：▼定員20名▼申込：まどいの丘(連絡先上記)▼時間：10:00~13:00完成は1時間後▼参加費：1000円
- 主催：第6回ほんわか山交流まつり実行委員会・とよた都市農山村交流ネットワーク
- 問合せ：おいでん・さんそんセンターTel.0565-62-0610 実行委員会(新実) Tel.090-8672-9374
- ホームページ：耕Life特設ページ <http://www.kou-life.com/honwaka/>



ゲストの根羽村森林組合 今村豊さん

その他の情報は、センターHPをチェック!

### こんにちは! 私がある地域の 中山間地域在住職員です!

豊田市は、中山間地域で暮らしながら市職員として支所で働く制度を導入しています。旭、足助、稲武、小原、下山の支所で働く中山間地域在住職員6人を毎回ご紹介します。

#### 第5回 小原支所

#### 白川佳宏さん

(しらかわ よしひろ)



先日、近所のおばあちゃんからいただいた手作りのこんにやくを食べて衝撃を受けました。「こんにやくがこんなにおいしいなんて!」最後の1切れは妻と取りあい。2歳の息子も一心不乱に食べていました。

小原で生活を始めてから、こうした小さな感動の連続です。前職では街中で新しい変化やサプライズを提供する仕事をしてきましたが、田舎で昔から受け継がれてきたこんにやくから受けたサプライズは計り知れないものでした。

ずっと住んでいる人には当たり前になっていて、ちょっと訪れた人ではなかなか出会えない、中山間地域暮らしの小さな感動がたくさんあります。まずは私自身が毎日の生活を楽しみながら、他の人にも伝えていきたいと思っています。

#### プロフィール

静岡県静岡市出身。34歳。元気すぎる妻と自由すぎる子供1人。5月に第2子誕生予定。気ままな鉄道旅と温泉が趣味。雪が降ってわくわくする中山間地域未熟者。

### センター長のミライのフツリーに向かって!

#### センター民営化

一般社団法人おいでん・さんそんセンターの登記手続きが完了しました。法人としての本格的な業務の開始は4月1日からとなります。これまでセンターを運営してきた住民、行政、NPO、専門家で構成するプラットフォーム会議メンバーが理事、監事となり、私が代表理事を務めます。

法人は、都市と山村、人と人、地域と企業をつなぐことで社会課題を解決し「暮らし満足都市」を実現する豊田市の取組み「おいでん・さんそんセンター」の業務を受託する。そして、支え合う社会に有用な人材育成や持続可能な地域づくりの研究・実践など民間団体としての自主事業も合わせ行うことになる。

法人化は、センター開設当初から予定されていたことであり、専門部会を設け、先進事例や組織のあり方について調査と研究を重ねてきた。3年半をかけてたどり着いた形は、公の信用と民間の機動性、柔軟性、専門性を併せ持つ「ミライの市役所」だった。

法人化で何が変わるのか。それは、行政の出先窓口から人格を有する「生き物」に変わることだと思ふ。意思を持ち、呼吸をし、能動的に動く。価値観を共有する仲間を集め、ネットワークを形成し、社会課題を解決に導く社会運動体となることだと思ふ。拡大と成長の時代は、競争と対立により人々を豊かにしてきた。迎える安定と成熟の時代は、支えあつて人々を幸福にする社会でなければならぬ。法人化されたセンターは、その要になりたいたいと思ふ。

### 平成28年度いなかとまちのくるま座ミーティング

## いなかをいなからしく磨き上げるために

2月5日(日)、平成28年度いなかとまちのくるま座ミーティングを、足助交流館で行いました。島根県からお招きした石見銀山生活文化研究所代表取締役の松場登美さんの基調講演には214名、「移住定住」、「スモールビジネス」、「森林」の3つの分科会に分かれた午後のくるま座談義には合計127名と、市内外から多くのご参加をいただきました。「いなかをいなからしく磨き上げる」について考えた1日の様子をお伝えします。



基調講演で登壇した石見銀山生活文化研究所代表取締役の松場登美さん

**足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ**

島根県大田市大森町。人口約400人のこの町から、アパレルブランド「群言堂」を全国に展開。築220年の古民家を10年かけて再生した宿「他郷阿部家」には、一泊2万5千円にも関わらず予約が相次いでいる。これらを手がける松場登美さんに「足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ」というテーマでお話いただきました。講演内容の一部をご紹介します。

**強い想いが事業を形にしていく**

経済成長、バブル崩壊などを経験してきて、失ったものの中に、とても大事なものがあつたとつくづく感じています。私は現在67歳。同級生の中には「年金暮らしで悠々自適」と言う方もいるけれど、雑巾ではなく、浄巾となつて、未来の子どもや孫のためにこの世を清めていく役割を死ぬまでやらないといけないと思つています。

37年前、夫の郷里である大森町に帰った時、過疎・高齢化が進んで衰退の象徴のような町だったけれど、「こならやっつけていける」と直感しました。今振り返ると、「自然・歴史・田舎ならではのコミュニティ」というお金では買えない3つが揃っていたからだと思ふ。当時、内職ではワゴン一台を借りて行商して歩いてお金を貯めていった。資金は無かつたけれど、「私の人生この町で過ごすのであれば、ここに生きた証として何か自分の足跡を残したい」と思つてきました。その強い想いが今の事業を成り立たせたと思ふ。

**日々の暮らしが豊かな人生をつくる**

アパレルブランド「群言堂」の服は、国内素材で、国内生産しています。大切にしていることは、流行は追わず、時代性を追うこと。決して安くはない服ですが、お客様は、10年、15年前の服を着続けてくださっています。

布は、木綿を紡いで長い糸ができ、縦糸や横糸として使われます。美しい錦の織物になるかどうかは横糸の一本一本が大事。歴史を継承すると、横糸は日々の暮らし方。一時の積み重ねが、金銭的ではなく、人として豊かな人生をつくると思ふ。

足助

ASUKE

はじめての山仕事ガイド



近日発行予定の「はじめての山仕事ガイド」が資料提供されました

の知識と技術を身に付け、森の恵みを受けながら山里を再生し守れるようになるにはどうすればいいか、話し合いました。ゲストは根羽村森林組合の今村参事。林野庁から長野県庁、根羽村、そして現職という幅広い経歴を持ち、山に向き合う心でプロの技術評価、木育事業など森づくりにかける熱い想いを語っていただきました。話題提供では、「あさひ森の健康診



地域スモールビジネス研究会で、たくさんの参加者から質問の手が挙がりました

まとめの全体会には、各分科会のコーディネーター3名に加えて松場さん、鈴木辰吉センター長、太田稔彦市長が登壇されました。松場さんは「地域問題に工夫と解決策を加えて商品を生み出すと、モノの背景にある考え方が消費を促す時代が来



ゲストの根羽村森林組合今村豊さん

断、「旭木の駅プロジェクト」、「あさひ新作り研究会」等の取組について各代表からご紹介いただきました。意見交換では、山仕事のプロから素人山主、山を持たない人など、多様な参加者が、森に対する想いを発言しました。そして、山仕事のプロ、山主でありながら山を知らない孤独な山主、山を持たないボランティアなどが、一堂に会し、話し合う場の重要性が確認されました。(坂部友隆)

1月29日(日)、『社会人のための地域参加促進セミナー「10年後の豊田! その時、あなたは・・・?」つながり、つくる豊かな暮らし』が開催されました。おいでん・さんそんセンターは今年から主催団体に加わり、ブース出展と活動紹介に参加しました。中山間地域からは、「あさひ新づくり研究会」や「すぎん工房」など、新たな社会参加の形が紹介されました。基調講演として、「豊田が進む未知、あなたが進む道」と題して、牧野篤氏(東京大学大学院教育学研究科教授/豊田市第8次総合計画審議会委員)の講演が行われました。

社会人のための地域参加促進セミナー



まちなか MACHINAKA

ていると感じます。太田市長からは、「田舎暮らしの一番の強みは自然と向き合うこと、人との関わりの中で学ぶこと、困難には柔軟に生き方を模索できること。今、少し無理をして移住者を受け入れて仲間を増やせば、子や孫の時代が助かります」とコメントがありました。センター長は、「循環型社会、子育てや教育、福祉でも田舎ゆえ色濃く残っていることを磨き上げる先に、幸せな社会があるのだと思います」と



まとめの全体会には、太田稔彦市長も登壇されました



牧野教授の講演に聞き入る参加者

牧野氏からは、今後急激に進む豊田市の人口高齢化に対し、社会全体の「支え合い構造の見直し」が急務であること、地域住民が自ら経営するコミュニティづくりが求められていること、「楽しい」がキーワードになるなどの示唆に富んだお話を聞くことができました。(西田又紀)

全体の総括をしました。(西田又紀)

石見銀山生活文化研究所の社屋は、登り窯で焼かれた石州瓦4000枚が使われている大屋根の建物です。中に入るとオフィスのようになっていてギャップに驚かれることも多いです。田舎の原風景を壊さないよう、土地の神様と相談しながら景色を作ってきた完成までに6年かかりました。会社として大事にしているのは売り上げ目標より、継続目標。夫は「文化51、経済49」とよく言います。文化だけだとお金のレールが維持できない。社員も雇えない。物も作れない。文化51のうち1%に強い志と哲学を持ってこういう企業は生き残れると言っています。

暮らしのある風景を残し、伝えたい 1789年に建てられた阿部家という家を一千万円で買い、13年かけて直し、理想の衣食住の暮らしを実現する場「他郷阿部家」として宿にしました。赤字が続いているけれど、NHKの特番のスタジオや、ユネスコの会議の場として使われたりして、形のない人との出会いなどを財産とするなら、とても財産持ちになりました。ここでは、干し大根、干し柿などが下げてあります。お客さんは、どんな花が飾ってあるより感動してくれます。暮らしのある風景は素晴らしい。私の母や祖母の時代には、「もったいない」、「ありがたい」と言いながら美しい暮らしを守っていました。そういう精神を他郷阿部家を通じて残し、伝え



基調講演の後、聴講者から松場さんへの質問タイムがありました

移住・定住専門部会 「空き家にあかりを」プロジェクトの情報交換会として、移住定住に取り組む実践者やイーターナー・移住希望者たちが一堂

ていきたいと思っています。石見銀山が世界遺産に認定されたのは、銀による経済意義が認められたのではなく、鉱山遺跡と自然との共生、そしてその文化的景観が評価されたからです。経済発展だけが幸せでない、技術革新だけが幸せでない、人類にとってどういう発展が幸せなのかを、石見銀山から問うていきたいです。(木浦幸加)

地域スモールビジネス研究会 「コーディネーター高野雅夫」 ゲストに、東栄町で体験型ゲストハウスを運営する金城愛さん、旭地区で農家民宿を運営する鈴木桂子さん、稲武地区でコンフィチュール製造をしながらエンジニ

に会し、グループ談義では悩み、実践例、展望など話が尽きないようでした。特徴的だったのは、空き家の大家側は改修しないと借り手がつかないと想い、借手側は古いままの自分で直せる家がいいという思いのミスマッチ。田舎の人にとって価値がないと思っていたことに、移住希望者が価値を見出しているということがわかりました。5地区を代表する話題提供者が並んだ実践者サミットでは、まずは「動くこと」を大切に、しっかりと学びながら楽しんでやっていく、という前向きな思いがあふれました。実践者同士の情報交換は刺激的で、今後につながるぐるま座談会となりました。(小黒敦子)



5地区を代表する地域の皆さんに、今後の抱負を掲げていただきました

森林部会 「コーディネーター丹羽健司」 テーマは「森の恵みを受けながら、山里をよみがえらせよう!」。地域住民が山仕事



木浦幸加) こと、本当に大事なことが見えてくるという新しい仕事の見つけ方が発見できました」と最後に

アとして海外のプロジェクトにもかかわる三木和子さん、基調講演をしていただいた松場登美さんをお迎えし、女性の生き方・暮らし方と地域との関わりについて考えました。それぞれの事業について話題提供していただいた後、近くに座った参加者同士で、ゲストへの質問を考え、発表していただきました。「宿泊費、コンフィチュールの価格はどのように決めているか」、「事業を始めるに至った強い想いが伝わってきたか」、「田舎で補助金を使うことについてどう思うか」など、聞いてみないとなかなか表に出てこない真相にせまる質問に、お答えいただきました。コーディネーターの名古屋大学・高野教授は「無計画に見えて、柔軟に転がっていくことで、本当に大事なことが見えてくるという新しい仕事の見つけ方が発見できました」と最後に